



東京2020オリンピック 聖火リレー

〜鳥取県19市町村をおよそ170人が走破〜

新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期された東京2020オリンピックの聖火リレーが3月25日(木)、福島県から始まりました。

鳥取県では5月21日(金)から2日間、リレールート上の短縮や沿道での観覧制限などの感染対策をとりながら予定通り実施され、19市町村をおよそ170人のランナーが走りました。



稲垣杏奈さん

本町では、鳥取県公募枠から選ばれた町内在住の稲垣杏奈さんと奥田晃代さん、またスポンサー企業枠で選ばれた4人の合計6人が聖火をつなぎました。

伯耆町は1日目の15時56分、最初のランナー・稲垣杏奈さん(岸本中3年)が伯耆町役場本庁舎の正面玄関をスタート。稲垣さんは、沿道の観覧者から温かい拍手に包まれて笑顔で走り、それから4人が役場前バス停から役場正面玄関の間を往復した後、最終走者・奥田晃代さんに聖火が渡されました。

奥田さんは、晴れやかな表情で沿道に向かって手を振りながら、1歩ずつ噛みしめるように足を進め、役場前バス停から伯耆橋交差点まで走破しました。

最初のランナー・稲垣杏奈さんは、平泳ぎで数多くの全国大会に出場し、中国地方の女子中学生記録を更新するなど、今後の活躍が期待される若き競泳選手です。

リレー後の感想を聞くと、「聖火ランナーとしてオリンピックに参加できて、とてもうれしかったです。私の目標は3年後のパリオリンピックに水泳の選手として出場することです。そのために毎日厳しいトレーニングをしています。「頑張ればできる」、その姿を見てもらって、皆さんとコロナを乗り越えたい。そんな気持ちで走りました。応援ありがとうございました。」と話しました。

また、最終走者を務めた奥田晃代さんは、聖火ランナーに応募したきっかけについて、「私は17歳の時に、足の骨の病気(骨芽細胞腫瘍)になりました。手術を受けるも、20歳の時には再発をし、骨移植を受けることとなりました。骨バンクから私に合った骨を頂くことになり、この先歩けなくなるかもしれない私に光が差し込み、本当に嬉しかったです。名前もわからない誰



奥田晃代さん

かの骨ですが、その人の人生とともに現在も歩いています。オリンピックの聖火ランナーに選ばれましたら、その人の分も一緒に走りたいと思い応募しました。感謝の気持ちで最後まで走りたいと思います」と話しています。

奥田さんに走り終えた感想を伺いました。「リレー前は楽しみな面と、コロナ禍で実施されることへの不安な面とで複雑な気持ちでした。走行中は医療・介護従事者への感謝と明るいニュースを届けようという思いで走りました。沿道の方々に笑顔で応援していただき嬉しかったです。気持ちよく走れました。」

米フェスタ関係者が田植え

～米フェスタ2021～

おいしい米づくりのトライ！

田植え体験をとおして、米や農業への理解を深める「米フェスタ2021おいしい米づくりのトライ」が5月25日（火）、丸山のふれあい交流田で開催されました。

今年で34回目を迎える田植え体験には、毎年J Aあぐりキッズスワールのメンバーなど約300人の親子らが参加し賑わいますが、昨年と同様に感染防止のため、米フェスタ実行委員会のスタッフら関係者24人でを行いました。

参加者は、約20アールの田んぼにコシヒカリの苗を丁寧に手植えしました。収穫時期に合わせ、9月下旬に「親子稲刈り体験」を行う予定です。



避難所開設訓練

～雨季に備え、

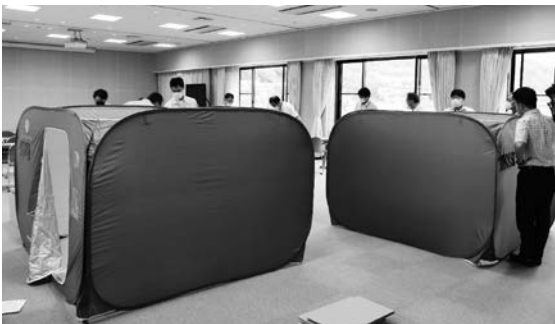
職員が手順を確認～

雨季の災害に備え、町職員が溝口公民館で6月3日（木）、避難所開設訓練を行いました。訓練には、防災担当の総務課と避難所責任者となる職員10人が参加しました。

町は、伯耆町災害時職員初動マニュアルを今年3月に改定し、職員の動員体制や事務分担を見直しました。これに合わせ、発災時に避難所開設を円滑に行うため、今回の訓練を実施しました。

参加職員は避難所開設の流れを確認した後、避難所で使用する段ボールベッドとコロナ対策として新たに導入したプライベートテントを組み立てました。テントは、主に新型コロナウイルスの感染の疑いがある方等の対応に使用する予定です。

総務課は、「今回参加した職員から出た意見や課題を今後の避難所運営に反映させ、災害対応の強化に繋がりたい」と話しました。



「大山ハム 大山工場」地鎮祭

～写真美術館隣接地に新工場建設～

食肉加工品製造の大山ハムファクトリー（米子市夜見町）が6月10日（木）、植田正治写真美術館隣接地（伯耆町須村）に新設する「大山工場」の地鎮祭を行いました。

地鎮祭には、同社関係者、森安保町長など約20人が出席。村上隆社長らが工事の無事を祈願してくわ入れを行い、関係者らが玉串をささげました。

来年7月の操業開始を目指し、6月に着工。同社によると、新工場ではハム、生ハム、ベーコンなどを製造するほか、工場内に直売所も設け、大山山麓のにぎわい創出を図るとのことです。

村上隆社長は「大山の麓という最高のロケーションで、従業員のモチベーションアップになる。山陰の人が集まる場所、当社製品のおいしさを発信できる場所にしたい」と話しました。



工事の安全を祈願して玉串をささげる森安保町長

お詫びと訂正 5月25日に発行・配布しました広報ほうき6月号7ページ「まちのわだい／伯耆町議会議員当選証書附与式」の記載内容に誤りがありましたので、次のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

〈誤〉任期は、令和3年5月1日から令和7年4月30日までの**3年間**です。〈正〉任期は、（中略）**4年間**です。